

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 I, III 】
2 実施対象者	大子町立大子中学校 1学年：72名 2学年：72名 3学年：78名 合計：213名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① <u>教科名</u> (保健体育, 総合的な学習の時間, 道徳, 学級活動) ② <u>行事名</u> (パラリンピアンによる講演会) ③ <u>その他</u> (部活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	◎オリンピック・パラリンピアンを身近に感じることによって、努力する喜び、フェアプレイ、他者への尊敬などの態度を醸成する。 ○障害のある人もない人もともに暮らせる社会作りをしようとする態度を育てる。 ○将来の自分を見つめ、今の自分にできること、自分に必要なことは何かを考え、行動することができる。
5 取組内容	9月 「I'm POSSIBLE」を用いたオリンピック・パラリンピックの理解啓発を保健体育の授業で行う。本校は昨年度に引き続き2度目の事業開催となるため2、3年生は、昨年度の振り返りとして授業展開をした。1年生については、難しいと思えることも工夫次第でできるようにするという、パラリンピックの選手たちからのメッセージについて学習をした。 10月 道徳科または、学級活動で人権や自己実現に関する授業を全学級行った。 11月 パラリンピアンによる講演会を開催した。 講演 「自分に負けない気持ちで挑もう」 講師 ロンドンパラリンピック大会パワーリフティング49kg級 パラリンピアン 三浦 浩 先生



コンサート中の事故で車椅子の生活になってしまった

アーティストの長洲剛さんと一緒に音楽活動をしていた。





自分にできないことをどうやってできるようになるか？
 ちょっと工夫してできるようになる。
 努力してやっているとみんな超人になれる！



話の合間に歌声を披露
 生徒からは大きな歓声が！



夢や目標をもって！
 みなさんもあきらめず、
 自分を信じてコツコツとやっつけていこう！

1月 1, 2年生は次年度に向けての進路に関する学習を行う。

1年生は、2年生の夏期休業中に予定している職業体験に向けて職業調べを行う。
 2年生は、自分の夢を叶えられそうな学科を持つ高校を中心に高校調べを行う。

2月 2年生は、立志式を行い、決意を新たに夢や希望に向かって取り組んでいく。



6 主な成果

○「I'm POSSIBLE」を用いたオリンピック・パラリンピックの授業後は、不可能だと思えたこともちょっと考えて工夫さえすれば何でもできるようになるという、パラリンピックの選手たちが体現するメッセージを受け、保健体育の授業や部活動のトレーニングで工夫が見られるようになった。オリビズムの根本原則の一つである礼儀やルールの遵守などを意識する生徒が増えてきた。

○障害のある人もない人もともに暮らせるような社会作りは、身近なところから自分たちができることから始めていこうと考え、行動する生徒が増えた。全学級で道徳科または、学級活動で人権や自己実現に関する授業を行った。特に人権に関しては、「ユニバーサルデザインを増やすことも大切だったが、それ以上に助け合いの心も大切だと思った。」「人との関わりが少なくなっていく世の中で、少しでも他人を助けようとする気持ちを持つことがみんなまで共存していく上で大切だと思う。」など行動を支えていくために、協力する気持ちをしっかりと持つこと、目的

ワークシート)~障害のある人もない人も共に暮らせる社会について考えよう~

1 施設内を見て、下の例を参考に障害者にとって使いやすいように工夫されていると感じるところを挙げよう。
 (例1) 入口が自動ドアになっている。
 (例2) トイレの洗面所にある水道の水が、自動で出で止まる。

ここが	こうなっている(工夫がポイント)
入口前の階段	スロープになっている。
エレベーター	広くなっている。

2 施設の変更はなくても、だれでも不便なく暮らすためには、どうしたらよいと思い出す自分の考えを書きましよう。

・手をかす ・思いやりがほしい

3 リフレットの中に書かれている、障害のある人の様々な生活場面を想定して、どのような「合理的配慮の提供」ができるか話し合ひましよう。

想定場面	合理的配慮の提供
自覚し得ず手が触れず、足が滑りやすいとき	エレベーターボタンに点字をつけよう。
車いす使用者がバスに乗るとき	降りまわりの音で知らせる。低い位置につけよう。

※参考資料 障害者差別解消法
http://www8.cao.go.jp/shugi/suisa/wakokai_jedfrc.html
 内閣府 合理的配慮ワークシート(合理的配慮等具体例データ集)
<http://www8.cao.go.jp/shugi/suisa/jsp/>

4 今日の活動を通して学習した、障害のある人もない人も共に暮らせる社会についてのあなたの考えを書きましよう。

バリアフリーの設置は必要だけど、周りの人の思いやりだけでもいいと思う。

	<p>意識をもって行動することなどをあげている生徒が多かった。</p> <p>○パラリンピアン講演をとおして、努力する喜び、フェアプレイ、夢に向かって進むことの大切さなどの気持ちを高めることができた。</p> <p>その気持ちは、講演会の閉会式での生徒の感想から看取ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなときでも前向きになることを学んだ。話を聞いているうちにやればできるという気持ちになった。言葉にならないほどたくさん力をもらった。(1年生) ・パラリンピックという言葉は知っていた。今日の話で、オリンピックと同じくすごい大会なんだと実感した。オリンピック・パラリンピックと並べる意味がよくわかった。(2年生) ・努力することの大切さ、どんなときでも前に進む勇気をもらった。私は、自分の夢の実現のために、今、取り組んでいることを最後まで諦めずにやり遂げようと思う。(3年生) ・私たちは授業で、誰もが暮らしやすい社会について考えた。今日の話聞いて、本当に誰もが暮らしやすい社会にしていかなければいけないんだと思った。(3年生) <p>○学習や部活動に目標をもって取り組む生徒が増えた。</p> <p>自分の夢や希望を見据えて、今、何をすべきかと考え、行動する生徒、教師に将来の相談をする生徒が増えた。自分の夢や希望を実現するために学力の向上を目指したり部活動での対戦成績をあげる努力をしたりと生徒が前向きになってきた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○「IMPOSSIBLEからI'm POSSIBLEへ」をテーマに人権教育、キャリア教育の視点から保健体育、総合的な学習の時間、道徳、学級活動を中心に授業を展開した。</p> <p>○昨年度は、町と筑波大学の連携によりオリンピアンを招聘した。今年度は、学校長の紹介でパラリンピアンを招聘した。オリンピック、パラリンピックという違う立場からの話を聞くことで、2年間を通して、生徒によりよい力をつけるための有意義な機会とすることができた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○今回はパラリンピアンが早い段階で決定したので、講演会までの計画をパラリンピアンと十分打ち合わせた上で本番を迎えることができた。</p> <p>しかし、教職員に「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」の意義や「I'm POSSIBLE」の理解などの事前研修を行い、生徒への指導を深めるように擦る必要があった。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○引き続き、オリンピック・パラリンピックの意義や価値に基づき、次のような生徒の育成をめざしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・努力する喜び、よき模範となるなどの普遍的な倫理規範を尊重できる。 ・相手の立場になって、誰もが共に楽しむためのスポーツのルール作りや工夫ができる。 ・茨城国体においてもオリンピック・パラリンピックの意義や価値に通じるものがあることを感じることができる。 <p>○オリンピアン、パラリンピアンに講演いただいた内容を踏まえ、道徳科または、学級活動で人権や自己実現に関する授業を計画的に行う。</p>